

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 登録実用新案公報(U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3137071号  
(U3137071)

(45) 発行日 平成19年11月15日(2007.11.15)

(24) 登録日 平成19年10月24日(2007.10.24)

(51) Int. Cl. F 1  
A 4 5 C 7/00 (2006.01) A 4 5 C 7/00 D

評価書の請求 未請求 請求項の数 9 書面 (全 15 頁)

(21) 出願番号 実願2007-3547(U2007-3547)  
(22) 出願日 平成19年4月17日(2007.4.17)(73) 実用新案権者 507159120  
鈴木 俊雄  
東京都大田区久が原2-4-19-503  
(72) 考案者 鈴木 俊雄  
東京都大田区久が原2-4-19-503

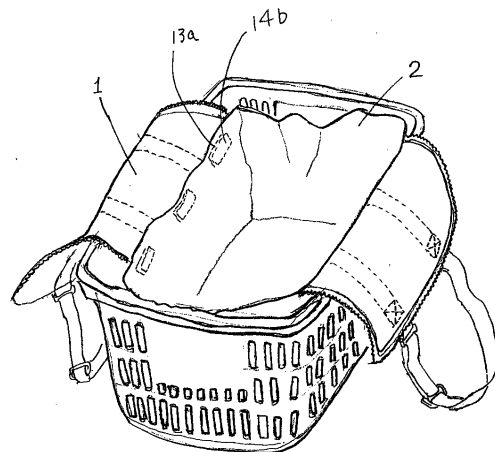
(54) 【考案の名称】 買い物用バッグ

(57) 【要約】 (修正有)

【解決手段】 ナイロンや人工皮革などの生地を使用した外側バッグ1と、ナイロンやレーヨンの生地を使用した内側バッグ2である。この夫々独立した二つのバッグ(外側バッグ1, 内側バッグ2)を面ファスナーで貼り付けて構成している。外側バッグ1は底面部(底板3を含む部分)の両側にこの底面部を囲むように一对の側面部が形成されており、底面部に接続する部分以外の側面部の外周には、一对の側面部が外周に沿って結合するようにファスナー6が設けられている。

【効果】 バッグの底部に若干の柔軟性があり重量物を支えることが出来る底板を差し込み、2本のベルトを外側バッグに縫い付けてあることで商品をしっかり保持することを可能としている。

【選択図】 図1



**【実用新案登録請求の範囲】****【請求項 1】**

スーパーマーケットのレジにおいて、顧客が清算の為にレジまで運んできたレジ籠より店員が商品を取り出しバーコードを読み取って新たなレジ籠に移し変える際、その新たなレジ籠に顧客が自ら持参した買い物バックを、自らの手でレジ籠の内側に沿ってすばやく箱型にフィットできる買い物用バック。このすばやく内側にフィットさせることを可能にする要件として、ナイロンや人工皮革などの厚手の生地を使用した外側バックとナイロンやレーヨンの生地を使用した薄手の内側バックからなる、夫々独立したバックを面ファスナーで貼り付けた買い物用バック。この二つからなる複合バックは、レジ籠にフィットさせたときに、内側バックの長辺が面ファスナーで外側バックに引っ張られて箱型に形成され、商品の入れ込みをスムーズに出来る状況を作り出す。また外側バックはレジ籠の長辺に沿って垂れ下がり、商品の入れ込みには邪魔にならない買い物用バック。

10

**【請求項 2】**

本考案のバックの底部には発砲ポリエチレン製などの若干の柔軟性があり且つ 2 L ボトルなどの重量物も支えられる硬さを有する底板が差し込んであり、これを 2 本の縫いこんだ厚手の P P やポリエステル製のベルトで支えているので、重量物もしっかり支えることが出来る買い物用バック。尚この底板はバックの底部にコの字に縫いこんだ袋状の出入り口から出し入れが自在できるようになっており、底板は角々が丸く小さくカットされ外側バックが成型されたときに底板の角が外側バック地に当たり外側バック地を傷つけないようになっている買い物用バック。

20

**【請求項 3】**

本考案のバックの底板の大きさは短辺が 2 L ボトルの底部の長辺より少し大きい 150 mm から 170 mm と長辺はスーパーマーケットのレジ籠の底部の長辺より両端から 30 mm から 40 mm 程度小さい大きさとする。外側バックは短辺が底板より両端が 70 mm から 80 mm 大きく、長辺は底板を底部としてバック状にした時に、2 L ボトルを立ててバック内に収まるのに十分な長さの、920 mm から 950 mm 程度の大きさになるバックで、平面に広げたときは卵形で長辺先端の左右を垂直に切った形状をしており、かつ短辺の中央部分の両脇からファスナーでバックの全周をしめることが出来るので収納商品の殆どは表出することなくバック内に納めることが出来る買い物用バック。

**【請求項 4】**

本考案の内側バックはナイロン製などの柔軟性がありかつ箱型に成型したときにかんりの自立性も付与された厚さの布で作られたもので、本考案の外側バックとは左右 3 箇所程度面ファスナーで留めてあり、容易に取り外しできるもので、内側バックだけはずして洗濯ができる買い物用バック。この内側バックは内面に P V C 加工した防水性のもの、またアルミ箔とウレタンを張り合わせて熱遮断性を有するもので作成し、保冷や保温ができるものに代えることもできる買い物用バック。

30

**【請求項 5】**

本考案のバックの底板を抜き取り、底板を芯にして巻き取れば、他のバックに収納することが出来る買い物用バック。

**【請求項 6】**

本考案の通常バックとは別に、長辺の長さがレジ籠に収めたときレジ籠の高さより 30 mm から 50 mm 程度長めで、平面に広げた際に長方形となる小さめの同タイプのバックを用意すると、このバックには本考案の通常バックを収納でき、かつこのバックは成型したときに上辺が底部より長い逆台形になり、見た目にも斬新性があり、通常バックより小さくその大きさから通勤用にも使用できる。通勤帰りには収納しておいた通常バックを利用することも出来、少な目の買い物ではこの小さめのバックを使用することが出来る買い物用バック。

40

**【請求項 7】**

本考案の外側バックに取り付けたベルトに、長さを収縮自在にできるプラスチックパーツを付けることによって、手提げ方式とショルダー方式にすることが出来る買い物バツ

50

ク。さらに外側バックの上部の両端と底部に袋状に二重にベルトを付けることによって、この袋状の中を、長さ調整が出来るプラスチックパーツと差込、離脱が自在なプラスチックバックルを付けた別添ベルトを通すことで、背負う方式にすることが出来る買い物用バック。

#### 【請求項 8】

本考案の外側バックの一方の生地を折り返して外側バックの上辺の外周にそって切断されたものを作り、その先に面ファスナーを付け、外側バックの内面に取り付けた面ファスナーに密着させて、その折り返し部分に折り込んだ内側バックを収納することが出来、通常のバックとしても使用できる買い物用バック。また詰め込む商品が多くすべてファスナーで閉められないときは、この折り返し部分がカバーとして使用でき、外側バック内部に、袋状のものを取り付けることによって、背負いベルトを収納することが出来き、また財布などの小物も同時に収納することが出来る買い物用バック。この折り返し部分と小物入れの袋状のものを、レジ籠に装着したときに、レジ籠の長辺の外側に垂らすことで、レジでの商品の入れ込みをよりスムーズに出来る買い物用バック。

10

#### 【考案の詳細な説明】

#### 【技術分野】

#### 【0001】

本考案はスーパーマーケットのレジにてバーコードを読み取った後に商品を新たなレジ籠に移し変える際、顧客が持ち込んだバックを新たなレジ籠にすばやく滞りなく装着できるかどうかに関する分野。

20

#### 【0002】

この持ち込む買い物用バックをレジ籠から引き上げて、買い物用バックとして使用する時、これらが繰り返し使用でき、積み込んだ商品の保持性及び安定性と携帯の際の利便性と機能性に関する分野。

#### 【背景技術】

#### 【0003】

従来、スーパーマーケットで商品を購入する際には、レジにてポリエチレン製などの樹脂系袋に詰められ、これを消費者が持ち帰り、この袋に家庭ごみが詰められてゴミとして出される。これらの袋はゴミとして回収され自治体が廃棄処分を行なっている。循環型社会の達成が叫ばれている今日、スーパーマーケットにおけるレジ袋は、資源の節約、廃棄物の減少の点から、有料化、廃止への動きが強まってきている。これに伴い消費者が自ら買い物用バックや籠を持参する機運が高まってきている。レジの精算時に一旦別のレジ籠で受けるのではなく消費者が持参した買い物用バックが装着されたレジ籠に移すことが出来れば、消費者がレジ籠から持参した買い物用バックに移し変える手間が省け、スーパーマーケット側でもこの移し変えに要するスペースを少なくできるメリットを享受することができる。

30

#### 【考案の開示】

#### 【考案が解決しようとする課題】

#### 【0004】

このような機運を受けて、最近ではスーパーマーケットのレジ籠に装着できる買い物用バックが市販されており、また種々の考案がなされている。これらは大きく分けると、風呂敷状の薄手の生地を吊り手をつけたものや、薄手の生地で形成されたバックの上部を紐で開閉できる巾着状のもの（特開2001-169816）と、帆布などの厚手の生地をレジ籠内に自立できるタイプ（実用新案登録番号、第3049733）に分けることが出来る。前者のものは不使用時に小さく畳むことができ携帯に利便性があるが、レジ籠に装着する際に手間取ること、レジ籠から引き上げた際に商品の保持性に劣り、また商品がお互いに圧迫されて損傷の恐れもあること、また携帯時に重量物が積み込まれた商品がある場合、偏りを発生させ商品の保持性に劣ること、商品の凹凸がバックの外表面にまで伝わり体裁面も悪く、他人の手足に接触するなどの不具合がある。後者はレジ籠への装着は容易であるが、厚手の生地できているため比較的バック自体が重たく、携帯時にも中身の大小

40

50

に拘わらず一定の形態のまま、レジ籠状の籠型買い物用バックを持ち歩くことになり、中身が少ない場合は必要以上の大きさのバックとなる。また多くはレジ籠の高さに順ずる高さのため多くの商品が表出し、この突出した商品をバンドなどで締め付けるよう提案されているがそれでも表出しは十分に防げず、また別の布地でカバーしなければならなくわずらわしい。仮に商品が表出しないように高さを十分にとると、レジにて店員が移しかえる際にレジ籠よりかなり高さのものになり、作業に支障をきたす恐れが出てくる。これらは大型のバックとなり買い物専用でしか使用できないこと、汚れやすい食品を積載することからバック内は汚れやすく買い物用バックは容易に洗濯、洗滌できることが望ましいがこの要請にも応えられないなどの不具合がある。

【課題を解決するための手段】

10

【0005】

上記の課題を解決するため、本考案ではレジですばやくレジ籠の内部に持参した買い物用バックを箱型にフィットさせることを容易に実施できるようにしたものである。スーパーマーケットのレジでは、顧客がバーコード読み取り機までレジ籠を持参すると即座に店員が商品を取り出し、バーコード読み取り機かけ新たなレジ籠に移すのが通常の行動である。すなわち顧客は持参した買い物用バックを新たなレジ籠の内側に沿って箱状の袋を僅か数秒でフィットさせることが要請される。従来技術では、レジ籠の上辺に被せるタイプのものは、風呂敷状のもの、巾着状のものに拘わらず数秒で実施することは不可能である。このことを解決する手段として、請求項1で外側バックと内側バックからなる、夫々独立したバックを面ファスナーで貼り付けることができ、レジ籠に装着した際に内側バックが外側バックに引っ張られて箱状に成型され外側バックの先端部はレジ籠の長辺の左右に垂れ下がり、1、2秒でレジ籠に装着できる買い物用バック。

20

【考案の効果】

【0006】

バックの底部に若干の柔軟性があり重量物を支えることが出来る底板を差し込み、2本のベルトを外側バックに縫い付けてあることで商品をしっかりと保持することを可能としている。

【0007】

底板の大きさ、外側バックの形状と大きさを既定しており、これらの考案によって、2Lペットボトルを立てて収納でき、レジ籠1個分の商品を略表出させることなく、収納できる容量を有する買い物用バックである。商品を詰め込んだ状態でこの形状を有することは、体裁も良く、商品の保持も良い買い物用バックとなる。

30

【0008】

内側バックは面ファスナーで外側バックに貼り付けられており。この内側バックは簡単に剥がすことができ、汚れやすい買い物用バックの汚れる部分だけを容易に洗濯することが出来る。

【0009】

底板を抜き取りこの板にバックを巻きつけることで、容量が小さくなり他のバックに収納でき携帯することが可能となる。通勤の帰りに買い物をする消費者に通勤用バックに納まる買い物用バックとして提供することができる。

40

【0010】

本考案の通常バックとは別に、バックに成型したときの形状が斬新性を有し、その大きさからも通勤用も兼ねることができる小さめのバックを提案している。このバックは手提げ方式とショルダー方式の両方に使えるもので、少量の買い物に使用するのに最適な買い物用バックとなる。

【0011】

本考案のバック縫い付けられたベルトと別添のベルトでもって手提げ方式、ショルダー方式、さらに背負い方式の3タイプに使い分けできる。

【0012】

外側バックの一方の先端部を折り返えし、その先端部に面ファスナーでその折り返し部

50

分を外側バック内部に留めることで、内側バックを内部に収納でき通常バックとして使える方法を提案している。また商品が多く表出する場合はこの折り返し部分がカバーとしても使える。また袋状のものを外側バックの内側に取り付けることで、財布などの小物を収納することが出来る。

【考案を実施するための最良の形態】

【0013】

スーパーマーケットのレジにおいて、顧客が清算の為にレジまで運んできたレジ籠より店員が商品を取り出しバーコードを読み取って新たなレジ籠に移し変える際、その新たなレジ籠に顧客が自ら持参した買い物用バックを、自らの手でレジ籠の内側に沿ってすばやく箱型にフィットできる買い物用バック。このすばやく内側にフィットさせることを可能にする要件として、図1のナイロンや人工皮革などの生地を使用した外側バック(1)とナイロンやレーヨンの生地を使用した内側バック(2)からなる、夫々独立したバックを面ファスナーで(図2Aの7a, 図2Bの8b)貼り付けた買い物用バック。この二つからなる複合バックは、レジ籠にフィットさせたときに、内側バックは長辺が面ファスナーで外側バックに貼り付けられているため、外側バックに引っ張られて箱型に形成され、商品の入れ込みをスムーズに出来る状況を作り出す。また外側バックは図1に示すようにレジ籠の長辺に沿って垂れ下がり、商品の入れ込みには邪魔にならない。

10

【0014】

バックの底部に発砲ポリエチレン製などの若干の柔軟性があり且つ2Lボトルなどの重量物も支えられる硬さを有する底板(図2Aの3)が差し込んであり、これを2本の縫いこんだ厚手のPPやポリエステル製のベルト(図2Aの4)で支えてあるので、重量物もしっかり支えることが出来る買い物用バック。尚この底板はコの字に縫いこんだ袋状(図2Aの5)の一方が開いておりそこから出し入れが自在になっている。また底板は角々が丸く小さくカットされ外側バックが成型されたときに底板の角が外側バック地に当たり傷つけないようになっている。

20

【0015】

底板の大きさは短辺が2Lボトルの底部の長辺より少し大きい150mmから170mmとし、長辺はスーパーマーケットの買い物籠の底部の長辺より両端から30mmから40mm程度小さい大きさとし、外側バックは短辺が底板より両端が70mmから80mm大きく、長辺は底板を底部としてバック状にした時に、2Lボトルを立ててバック内に収まるのに十分な長さの、920mmから950mm程度の大きさになるバックで、平面に広げたときは卵形で長辺先端の左右を垂直に切った形状をしており、かつ短辺の中央部分の両脇からファスナー(6)でバックの全周をしめることが出来るので収納商品の殆どは表出することなくバック内に納めることが出来る買い物用バック。

30

【0016】

内側バックは(図2Bの2)はナイロン製などの柔軟性がありかつ箱型に成型したときにかんりの自立性も付与された厚さの布で作られたもので、外側バック(図2Aの1)とは左右3箇所程度面ファスナーで留めてあり、容易に取り外しできるもので、内側バックだけはずして洗濯ができる買い物用バック。この内側バックは内面にPVC加工した防水性のもの、またアルミ箔とウレタンを張り合わせて熱遮断性を有するもので作成し、保冷や保温ができるものに代えることも可能である買い物用バック。

40

【0017】

底板を抜き取り、底板を芯にして図4のように巻き取れば、他のバックに収納することが出来る買い物用バック。

【0018】

本考案の通常バックとは別に、長辺の長さがレジ籠に収めたときレジ籠の高さより30mmから50mm程度長めで、平面に広げた際に長方形となる小さめの同タイプのバックを用意すると、このバックには図4で示した巻き取った本考案の通常バックを収納でき、かつこのバックは図7で示すように成型したときに上辺が底部より長い逆台形になり、見た目にも斬新性があり、通常バックより小さくその大きさから通勤用にも使用できる買

50

い物用バック。通勤帰りには収納しておいた通常バックを利用することも出来、少な目の買い物ではこの図6で示した小さめのバックを使用することで機能する買い物用バック。

【0019】

この買い物用バックは、取り付けたベルトの長さを収縮自在にできるプラスチックパーツ(図3の10)を付けることによって、手提げ方式とショルダー方式にすることが出来る。さらに図3の(4)のベルトを外側バックの上辺部と底部の裏面で袋状(11)に縫い付けることによって、この袋状の中を長さ調整が出来るプラスチックパーツ(図3の10)とプラスチックバックル(図5の12)を付けた図5の別添ベルト(図5の15)を通すことで、図5に示すように背負う方式にすることが出来る買い物用バック。

【0020】

外側バックの一方の地を折り返して外側バックの上辺の外周にそって切断されたもの(図2Aの13)を作り、その先に面ファスナー(図2Aの9b)を付け、外側バックの内面に取り付けた面ファスナー(図2Aの7a)に密着させて、その折り返しの内部に折り込んだ内側バック(図2Bの2)を収納することが出来る、通常のバックとしても使用できる買い物用バック。また詰め込む商品が多くすべてファスナーで閉められないときは、この折り返し部分がカバーとして使用できる。外側バック内部に、袋状のもの(図2Aの14)を取り付けることによって、図5の背負いベルト(15)を収納することが出来る、また財布などの小物も同時に収納することが出来る買い物用バック。

【図面の簡単な説明】

【0021】

- 【図1】本考案の買い物用バックをレジ籠に装着した見取り図
- 【図2】外側バックを平面に展開した平面図と内側バックを立てた見取り図
- 【図3】買い物用バックをファスナーで閉じた見取り図と外側バックの上辺部と底部の裏面にベルトを袋状に縫いこんだ見取り図
- 【図4】底板に外側バックを巻きつけた見取り図
- 【図5】別添ベルトを使って背負い方式にした見取り図
- 【図6】小バックを平面に展開した平面図と内側バックを立てた見取り図
- 【図7】小バックをファスナーで閉じた見取り図

【符号の説明】

【0022】

- 1 外側バック
- 2 内側バック
- 3 底板
- 4 バックに縫い付けられたベルト
- 5 底板を収納するコの字に縫い付けた袋
- 6 外側バックの円周部を閉じるファスナー
- 7 a 外側バックに取り付けた面ファスナー
- 8 b 内側バックに取り付けた面ファスナー
- 9 b 折り返し部分の内部の内側にとりつけた面ファスナー
- 10 4のベルトの長さの調節を可能にするプラスチックパーツ
- 11 4のベルトを袋状に縫いつけた部分
- 12 差込、離脱が自在なプラスチックバックル
- 13 外側バックの折り返し部分
- 14 外側バックに取り付けた袋状の小物入れ
- 15 背負い用別添ベルト

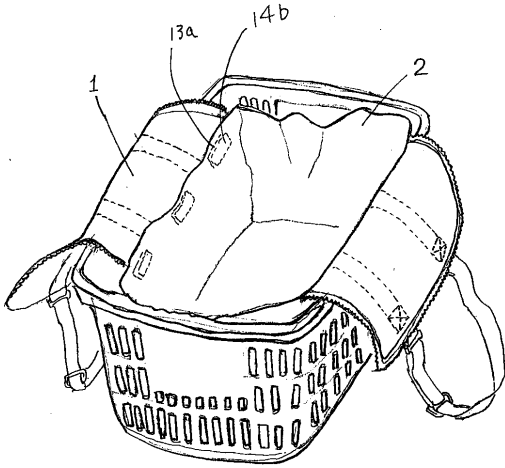
10

20

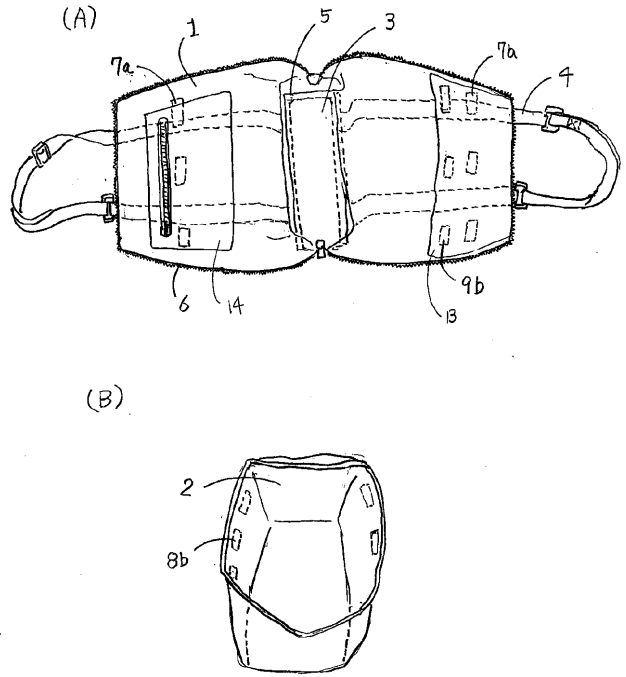
30

40

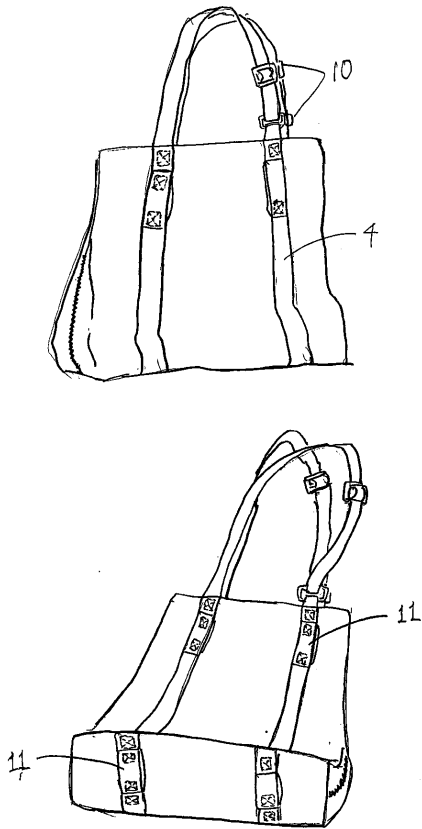
【 図 1 】



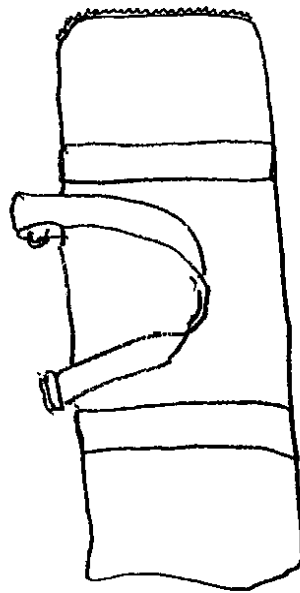
【 図 2 】



【 図 3 】



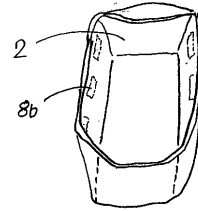
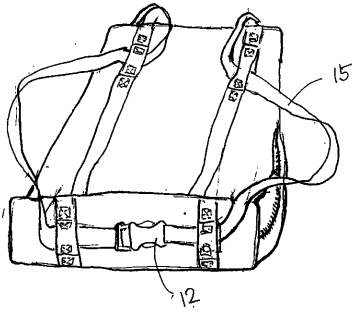
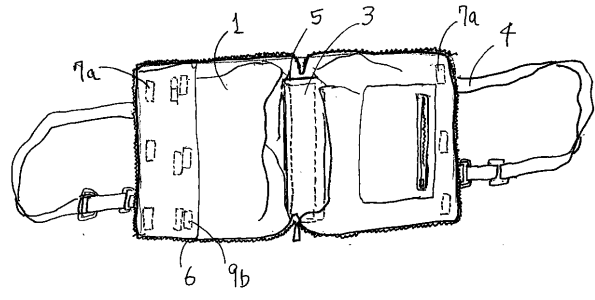
【 図 4 】



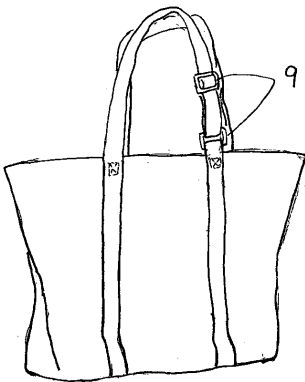
【 図 5 】



【 図 6 】



【 図 7 】





## 【手続補正書】

【提出日】平成19年7月4日(2007.7.4)

## 【手続補正1】

【補正対象書類名】実用新案登録請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

## 【補正の内容】

## 【実用新案登録請求の範囲】

## 【請求項1】

底面部の両側に、前記底面部を囲む一对の側面部が形成され、前記底面部に接続する部分以外の前記側面部の外周に設けられたファスナーによって前記一对の側面部の外周が互いに連結されて形成されるバッグであって、前記ファスナーの開口時には前記底面部を中心に前記一对の側面部が観音開きする外側バッグと、

前記外側バッグの下段部に配置される、形状に柔軟性ある収納バッグであって、その開口部周囲が一对の前記側面部の内側面に係止される内側バッグと、  
からなる買い物用バッグ。

## 【請求項2】

前記ファスナーを開口した状態で、前記外側バッグの下段部を店内設置の買い物籠の内壁に沿って装着したとき、前記内側バッグが前記買い物籠の開口部に合わせて開口することを特徴とする請求項1に記載の買い物用バッグ。

## 【請求項3】

一对の前記側面部の、それぞれの上段側に位置する部位は、前記外側バッグの下段部を前記買い物籠の内壁に沿って装着したとき、前記買い物籠の開口部上辺から前記買い物籠の外壁側へ垂れ下がり、前記内側バッグの開口状態を保持することを特徴とする請求項2に記載の買い物用バッグ。

## 【請求項4】

前記内側バッグと前記外側バッグとの係止は面ファスナーで行われることを特徴とする請求項1から請求項3のいずれかに記載の買い物用バッグ。

## 【請求項5】

前記内側バッグを箱型に成型し、対向する一对の側面の外側開口部周辺に雌雄いずれか一方の面ファスナーを配置し、前記外側バッグの側面部内側面の、前記面ファスナーと対向する高さ位置に、前記面ファスナーと係合しあう他方の面ファスナーを設けたことを特徴とする請求項4に記載の買い物用バッグ。

## 【請求項6】

前記底面部に硬質な素材の底板を設けることを特徴とする請求項1から請求項5のいずれかに記載の買い物用バッグ。

## 【請求項7】

前記底板は、前記底面部に取り付け及び取り外しが自在であることを特徴とする請求項6に記載の買い物用バッグ。

## 【請求項8】

前記外側バッグの前記底面部を支持するベルトを設けたことを特徴とする請求項1から請求項7のいずれかに記載の買い物用バッグ。

## 【請求項9】

請求項8に記載の買い物用バッグにおいて、

一方の前記側面部の上端側から前記底面部を通り、他方の前記側面部の上端側に向けて一对のベルトを周設し、前記上端側において、同一側面部側の一对の前記ベルト間に、それぞれ手揚げ部を形成することを特徴とする買い物用バッグ。

## 【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【考案の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本考案はスーパーマーケットのレジにて、商品のバーコードを読み取った後、商品を店内設置の商品籠（以下、レジ籠という）に新たに移し変える際に、その新たなレジ籠にすばやく滞りなく装着できるようにした買い物用バッグに関する。

【0002】

特に顧客によって持ち込まれ、レジ籠内に載置する買い物用バッグについて、レジ籠からそのまま引き上げて使用でき、何度も繰り返しの使用でき、また、バッグに収納された商品の保持性及び安定性と、携帯して移動する際の利便性と機能性を向上させることに關する分野である。

【背景技術】

【0003】

従来、スーパーマーケットで商品を購入する時には、レジにて店が用意したポリエチレン製の樹脂系袋に商品が詰められる。これを消費者が持ち帰り、その後、この袋には家庭用ごみが詰められてゴミとして処理される。これらのレジ袋は回収され自治体が廃棄処分を行なっている。循環型社会の達成が叫ばれている今日、スーパーマーケットにおけるレジ袋は、資源の節約、ごみ処理廃棄物の減少等の点から、有料化、廃止化への動きが強まってきている。これに伴い消費者は自ら買い物用バッグや籠を持参する省資源運動の機運が高まってきている。

【0004】

このような機運を受けて、最近ではスーパーマーケットのレジ籠に、そのまま装着できる買い物用バッグが市販されている。レジにおける商品の購入精算時に、一旦別のレジ籠で受けるのではなく、消費者が持参した買い物用バッグが装着されたレジ籠に移すことが出来れば、消費者もいちいちレジ籠から持参した買い物用バッグに商品に移し変える手間が省け、また、スーパーマーケット側でも、この移し替えに要するスペースを少なくすることができるメリットを享受することができる。

【0005】

これら買い物用バッグは大きく分けると、風呂敷状の薄手の生地を袋状にして吊り手をつけたものや、薄手の生地で形成されたバッグの上部を紐で開閉できる巾着状のもの（特許文献1）、帆布などの厚手の生地で形成され、レジ籠内にそれ自体で自立できるタイプのもの（特許文献2）などに分けることができる。

【0006】

【特許文献1】 特開2001-169816号公報

【特許文献2】 実用新案登録第3049733号

【考案の開示】

【本考案が解決しようとする課題】

【0007】

前者のもの、すなわち、風呂敷状のものや特許文献1に挙げた巾着状のものは、不使用時には小さく畳むことができ携帯時の利便性はあるが、レジ籠に装着する際に手間取ること、レジ籠から引き上げる際の商品の保持性に難点があり、さらには商品同士がお互いに圧迫されて損傷の恐れもあること、重量のある商品を袋内に入れる場合には携帯時に偏りを生じさせて商品運搬の安定性に欠けること、及び商品の凹凸がバッグの外面に伝わり体裁も悪く、他人の手足に接触する可能性があることなどの不具合がある。

【0008】

後者、すなわち特許文献2に挙げる自立タイプのもは、レジ籠への装着は容易であるが、厚手の生地できているため比較的バッグ自体が重く、携帯時にも中身の大小に拘わ

らず一定の形態を保持したままで、レジ籠状の買い物用バッグを持ち歩くことになり、中身が少ない場合は必要以上の大きさとなること、また多くはレジ籠の高さに順じてバッグの高さが決められるため、バッグから多くの商品が表出してしまうことなどの不具合がある。さらに、このバッグから表出した商品をバンドなどで締め付けるよう提案されているが、それでも商品の表出は十分防げず、別の布地でカバーしなければならなくなるなどのわずらわしさは拭えない。

【0009】

また、仮に商品がバッグから表出しないように高さを十分にとると、レジにて店員が商品を持ち替える際にレジ籠よりもかなりの高さになって、商品の収納作業に支障をきたす恐れが出てくる。さらに、このような構成にすると大型のバッグとなり、スーパーマーケットでの買い物専用でしか使用できないこと、汚れやすい食品を積載することからバッグ内は汚れやすく、バッグは容易に洗濯、洗滌できることが望ましいが、この要請にも応えられないなどの不具合が生じる。

【0010】

スーパーマーケットのレジでは、顧客がバーコード読み取り機のそばまで、商品を積載したレジ籠を持参すると、即座に店員が商品をレジ籠から取出し、バーコード読み取り機にかけ、新たなレジ籠に移すのが通常の行動である。すなわち、顧客は持参した買い物用バッグを新たなレジ籠の内側に沿って僅か数秒でフィットさせることが要請される。しかし、従来のバッグでは、例えばレジ籠の上辺に被せるタイプのものは、風呂敷状のものであると巾着状のものであるとに拘わらず、数秒で実施することは不可能である。

【0011】

本考案はこのような課題に鑑みてなされたものであり、スーパーマーケットなどのレジにて、消費者が持参した買い物用バッグをレジ籠の内部にすばやく、かつレジ籠の形状に合わせて箱型に装着でき、商品を収納した後はレジ籠から容易に取出しが可能であり、さらに運搬時の利便性が向上した買い物用バッグを提供することを目的としたものである。

【課題を解決するための手段】

【0012】

上記目的を達成するため、本考案の請求項1に記載の買い物用バッグは、底面部の両側に底面部を囲む一対の側面部が形成され、底面部に接続する部分以外の側面部の外周に設けられたファスナーによって一対の側面部の外周が互いに連結されるバッグであって、ファスナーの開口時には底面部を中心に一対の側面部が観音開きする外側バッグと、この外側バッグの下段部に配置される、形状に柔軟性ある収納バッグであって、その開口部周囲が側面部の内側面に係止される内側バッグとから構成されている。このような構成は店内設置のレジ籠に、顧客が迅速かつ容易に、持参した買い物用バッグをセットすることができ、効率的な処理を可能にする。

【0013】

請求項2に記載の買い物用バッグでは、請求項1に記載の買い物用バッグにおいて、ファスナーを開口した状態で、外側バッグの下段部を店内設置の買い物籠の内壁に沿って装着したとき、内側バッグが買い物籠の開口部に合わせて開口するように構成している。これにより買い物用バッグへの商品の収納が容易になり、消費者の利便性を向上させる。

【0014】

請求項3に記載の買い物用バッグでは、請求項2に記載の買い物用バッグにおいて、一対の側面部の、それぞれの上段側に位置する部位は、外側バッグの下段部を店内設置の買い物籠の内壁に沿って装着したとき、買い物籠の開口部上辺から買い物籠の外壁側へ垂れ下がり、内側バッグの開口状態を保持するように構成する。この側面部の上段部が設けられていることによって、レジにおける買い物用バッグへの商品収納時の利便性がさらに向上するだけでなく、外側バッグの形状と大きさを限定することにより、レジ籠1箱分の商品を購入用バッグから表出させることなく、完全に収納できるようにすることができる。

【0015】

請求項 4 に記載の買い物用バッグでは、請求項 1 から請求項 3 のいずれかに記載の買い物用バッグにおいて、内側バッグと外側バッグとの係止を面ファスナーで行なうように構成している。この構成の利点は、内側バッグは簡単に分離することができるので、汚れやすい買い物用バッグの汚れる部分だけを容易に洗濯することができることである。

【 0 0 1 6 】

請求項 5 に記載の買い物用バッグは、請求項 4 に記載の買い物用バッグにおいて、内側バッグを箱型に成型し、対向する一对の側面の外側開口部周辺に雌雄いずれか一方の面ファスナーを配置し、外側バッグの側面部内側面の、前記面ファスナーと対向する高さ位置に、前記面ファスナーと係合しあう他方の面ファスナーを設けた構成を有する。この買い物用バッグをレジ籠に装着した際には、内側バッグが外側バッグに引っ張られて箱状に形成される利点がある。

【 0 0 1 7 】

請求項 6 に記載の買い物用バッグは、請求項 1 から請求項 5 のいずれかに記載の買い物用バッグにおいて、外側バッグの底面部に硬質な素材の底板を設けて構成している。この構成により、重量物を収納しても商品をしっかり保持することを可能としている。

【 0 0 1 8 】

さらに、請求項 7 に記載の買い物用バッグでは、請求項 6 に記載の買い物用バッグにおいて、底板の底面部への取り付け及び取り外しが自在であるように構成している。不使用時において、底板を抜き取り、この板に買い物用バッグを巻きつけることで、容量が小さくなり他のバッグに収納でき、携帯することが可能となる。通勤の帰りに買い物をする消費者に通勤用バッグに納まる買い物用バッグとして利用度が向上する。

【 0 0 1 9 】

請求項 8 に記載の買い物用バッグでは、請求項 1 から請求項 7 のいずれかに記載の買い物用バッグにおいて、外側バッグの底面部を支持するベルトを設けて構成している。この構成によれば、ベルトを外側バッグに縫い付けてあるので、重量のある商品をしっかり保持することが可能である。特に、この請求項 8 に記載の買い物用バッグは、請求項 9 に記載の買い物用バッグのように、一方の側面部の上端側から底面部を通り、他方の側面部の上端側に向けて一对のベルトを周設し、その上端側において、同一側面部側の一对のベルト間に、それぞれ手提げ部を形成した構成が好ましい。商品運搬時の利便性を向上させるためである。

【 考案の効果 】

【 0 0 2 0 】

以上、本考案に係る買い物用バッグによれば、スーパーマーケットなどのレジにて、消費者が持参した買い物用バッグをレジ籠の内部にすばやく、かつレジ籠の形状に合わせて容易に装着でき、さらに収納バッグの開口部が箱型に維持されるので、買い物用バッグへの商品の収納が極めて迅速にかつスムーズに行なうことができる。商品を収納した後はレジ籠から容易に買い物用バッグを取出すことが可能で、同時に商品運搬時の利便性の向上が図られている。

【 0 0 2 1 】

また底板の大きさ、外側バッグの形状と大きさを設定すれば、2 L ペットボトルを立てて収納でき、レジ籠 1 個分の商品をおおよそ外部に表出させることなく、収納できる容量を有する買い物用バッグとすることができる。商品を詰め込んだ状態でこの形状を有することは、体裁も良く、商品の保持性も保たれる。

【 考案を実施するための最良の形態 】

【 0 0 2 2 】

以下、本考案に係る買い物用バッグの最良の実施形態を、添付図面を参照しながら説明する。図 1 は、スーパーマーケットのレジにおいて、顧客が清算の為にレジまで運んできた商品を、店員がレジ籠より取出し、商品価格情報等を記載したバーコードを読み取って新たなレジ籠に移し変える際、その新たなレジ籠に顧客が自ら持参した買い物用バッグを、自らの手でレジ籠の内側に沿ってすばやく箱型にフィットさせることができる本考案に

係る買い物用バッグの使用状態を示す斜視図である。

【0023】

このすばやくレジ籠の内側にフィットさせることを可能にする要件として、この買い物用バッグには二つの独立した構成部分がある。ナイロンや人工皮革などの生地を使用した外側バッグ1と、ナイロンやレーヨンの生地を使用した内側バッグ2である。本考案では、この夫々独立した二つのバッグ（外側バッグ1，内側バッグ2）を面ファスナー13b、14b（図2Aの7a、図2Bの8bと同じ）で貼り付けて構成されている。なお、図2（A）は外側バッグを平面に展開した平面構成図であり、図2（B）は内側バッグの外観斜視図である。

【0024】

外側バッグ1は図2（A）に示すように、底面部（底板3を含む部分）の両側にこの底面部を囲むように一对の側面部が形成されており、底面部に接続する部分以外の側面部の外周には、一对の側面部が外周に沿って結合するようにファスナー6が設けられている。従って、ファスナー6をしめると外側バッグ1は図3に示すような、底面部に膨らみを有する縦型の買い物用バッグとなり、ファスナー6を外側バッグ1の外周に沿ってすべて開口すると、底面部を中心に一对の側面部が左右に観音開きをした状態になる。

【0025】

外側バッグ1の底面部は、コの字を形成するように3方向が縫いこまれた袋5に構成されている。そして開いている一方から底板3を差し込んだり、抜き出したり、取出取入自在に形成されている。底板3は発砲ポリエチレン製などの若干の柔軟性があり、且つ2Lボトルなどの重量物も支えられる硬さを有する材質からなる。また底板3は角々が丸く小さくカットされ外側バッグ1が組み立てられたときに底板3の角が外側バッグ地に当たり傷つけないようになっている。

【0026】

底板3の大きさは、短辺が2Lボトルの底面部の長辺より少し大きい寸法の150mmから170mmとし、長辺はスーパーマーケットの買い物籠の底面部の長辺より30mmから40mm程度小さい寸法とする。また、外側バッグ1は短辺が底板3より70mmから80mm大きく、長辺は底板3を底面部としてバッグ状にした時に、2Lボトルを立ててバッグ内に収まるのに十分な長さの、920mmから950mm程度の大きさにする。外側バッグ1は観音開きをして平面状に広げたときは、おおよそ卵形をしており、卵形の長軸方向の先端を長軸に垂直に切った形状をしている。いわゆる外側バッグの底面部側が幅広で上部に行くに従い軽い円弧を描きながら小さくなる形状である。

【0027】

内側バッグ2はその形状は任意で融通性があるが、通常は図2（B）に示すように箱型に形成される。材質はナイロン製などの柔軟性がある素材が用いられ、かつ箱型に成型したときには、かなりの自立性も付与された厚さの布で作られたものである。この内側バッグ2は内面にPVC加工（ポリ塩化ビニール加工）した防水性のもの、またアルミ箔とウレタンを張り合わせて熱遮断層を有するもので作成し、保冷や保温ができるものに代えることも可能である。

【0028】

外側バッグ1の一对の側面部内側面には、内側面の中央部よりやや上端部側に、底面部の長辺にほぼ平行に、三つの面ファスナー7aが配置されている。また、内側バッグ2の両側面の外壁であって、開口部周囲近くにも三つの面ファスナー8bが設けられている。面ファスナー7aと面ファスナー8bは互いに雌雄の関係にあり、内側バッグ2は、外側バッグ1に設けられた面ファスナー7aによって係止されて、外側バッグ1の下底部に装着載置される。

【0029】

この二つの部分（外側バッグ1と内側バッグ2）を有する複合バッグは、まず外側バッグをレジ籠の形状に沿ってフィットさせたときに、内部バッグは長辺（すなわち外側バッグの幅方向）が面ファスナー8bで外部バッグの内側面に貼り付けられているため、外部

バッグに引っ張られて開口部が形成され、その全体形状も箱型に形成される。そのため、商品の収納がスムーズに出来る状況を作りだすことができる。また外側バッグの上端部側は図1に示すようにレジ籠の開口部上辺から買い物籠の外壁側に垂れ下がり、商品の収納行為に邪魔にならないだけでなく、内側バッグの開口状態を維持する役割を果たすことができる。

#### 【0030】

図3は本願考案に係る買い物用バッグの外観斜視図である。図3に示されるように、外側バッグ1の外面において、一方の側面部の上端側から底面部を通して他方の側面部の上端側に向けて一对のベルト4が張り廻らされている。ベルト4は側面部1の上端部と底面部において、しっかり縫製されて固定されている。さらに側面部の上端側において、同一側面部側の一对のベルト間に、それぞれ、同様のベルト4によって手提げ部(取手部)が形成されている。以上のように、本形態の買い物用バッグは、底面部には硬質の底板3が取り付けられ、また、これを2本のベルト4で支えているので、重量物を収納してもしっかり支えることが出来る。なお、ベルト4は厚手のPP(ポリプロピレン)やポリエステル製素材で構成することができる。

#### 【0031】

以上のように構成した買い物用バッグによれば、汚れやすい内側バッグ2だけを容易にはずして洗濯できる利点がある。内側バッグ2は外側バッグと左右3箇所程度、面ファスナーで留められているだけで、容易に取り外しが出来るからである。また、外側バッグ1の両側面部は底面部の両側中央から側面部の上部に向けてファスナー6で側面部の全周を隈なく絞止できるので収納商品の殆どは表出することなく買い物用バッグ内に納めることが出来る。なお、この買い物用バッグは、底板3を抜き取り、かつそれを芯にして側面部を図4に示すように巻き取れば、他のバッグ内に容易に収納することが出来る。

#### 【0032】

図6に、上記実施形態に係る買い物用バッグと同タイプであるが、側面部の大きさ・形状が異なる新たな形態の買い物用バッグを示したこの買い物用バッグは、レジ籠に収めたとき、外側バッグの高さ(長辺の長さ)がレジ籠の高さより30mmから50mm程度、長くなるように構成する。さらに図6に示すように、両側面部を観音開きして平面状に広げた際には、いわゆる卵形ではなく、長方形となるように構成する。

#### 【0033】

このように構成した買い物用バッグは、図4で示したような巻き取った本考案にかかる通常の買い物用バッグを収納でき、かつこの買い物用バッグは、図7にその外観を示すように、側面部外周に配置されたファスナー6を閉めたときに、上端部が底面部より長い逆台形になり、斬新性があり、通常の買い物用バッグより小さく、その大きさから通勤用にも使用できる買い物用バッグになる。通勤帰りには、収納しておいた通常の大きさの買い物用バッグを利用することもでき、収納すべき商品が少ないときには、この図6で示した小さめのバッグを使用することもできる。

#### 【0034】

図3は当初の実施形態に係る買い物用バッグをファスナーで閉じた際の外観図と外側バッグの上端外側部と底面部の底にベルト通しを袋状に縫いこんだ外観図である。この買い物用バッグでは、取り付けたベルト4に、その取手部(手提げ部分)の長さを収縮自在にできるようにプラスチックパーツ10を付けることによって、手提げ方式とショルダー方式に変換することが可能である。

#### 【0035】

さらに、買い物用バッグの側面部のベルト4を外側バッグ1の上端部と底面部の裏底に袋状に縫い付けることによってベルト通し11を形成する。図5はこのベルト通し11と別添ベルト15を使用して、背負い方式に応用した買い物用バッグの外観図である。この袋状のベルト通し11の中を、長さ調整が出来るプラスチックパーツ10とプラスチックバックル12を付けた別添ベルト15を通すことで、背負い方式に容易に変換することができる。

## 【 0 0 3 6 】

なお、収納商品が多いときのために、外側バッグ 1 の一方の側面部内側にカバー部材 1 3 を取り付けてもよい。例えば、カバー部材 1 3 は外側バッグ 1 の一方の素地を折り返し、その素材を外側バッグ 1 の上端部の形状に沿って切断して作ることができる。収納する商品が多くて、ファスナー 6 を完全に閉められないときは、このカバー部材 1 3 (折り返し部分) が商品を保護する。

## 【 0 0 3 7 】

また、カバー部材 1 3 の先端部には面ファスナー 9 b (図 2 参照) を付け、外側バッグ 1 の側面部の内面に取り付けた面ファスナー 7 a と係合させる。このような構成では、カバー部材 1 3 の内部に、畳んだ内側バッグ 2 を収納することができ、内部バッグ 2 を使用しない単一バッグとしても使用することができる。なお、外側バッグ 1 の側面部内部に袋状のもの (いわゆるポケット) 1 4 を取り付けることで、背負い方式に変更するとき使用する別添ベルト 1 5 (図 5 参照) を収納することができ、また財布などの小物も同時に収納することができる。

## 【 図面の簡単な説明 】

## 【 0 0 3 8 】

【 図 1 】 本考案に係る買い物用バッグの使用状態を示す斜視図である。

【 図 2 】 ( A ) は外側バッグを平面に展開した平面構成図であり、( B ) は内側バッグの外観斜視図である。

【 図 3 】 本願考案に係る買い物用バッグの外観斜視図である。

【 図 4 】 底板に外側バッグを巻きつけた買い物用バッグの見取り図である。

【 図 5 】 別添ベルトを使って背負い方式にした買い物用バッグの全体図である。

【 図 6 】 本考案に係る他の実施形態の買い物用バッグを平面に展開した平面構成図と内側バッグの斜視図である。

【 図 7 】 他の実施形態に係る買い物用バッグの全体図である。

## 【 符号の説明 】

## 【 0 0 3 9 】

- 1 外側バッグ
- 2 内側バッグ
- 3 底板
- 4 ベルト
- 5 袋
- 6 ファスナー
- 7 a 面ファスナー
- 8 b 面ファスナー
- 9 b 面ファスナー
- 1 0 プラスチックパーツ
- 1 1 ベルト通し
- 1 2 プラスチックバックル
- 1 3 カバー部材
- 1 4 ポケット
- 1 5 別添ベルト